

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	小田 久美子		
授 業 科 目	色彩学	科目区分	関連科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>(主 題) 本授業は、色彩学を体験的に学ぶことで色彩理解に必要な感覚と技術を修得することを目的とする。授業では、数回にわたって各課題を達成し、色彩と形態の構成を考察する機会を持つ。</p> <p>(到達目標) 1. 形態と色彩についての基礎を学ぶ。 2. 色彩学を体験的に学ぶことによって、感覚と技術を身につける。 3. 制作によって色彩に対する理解と親しみを持つことができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩の認識・色彩演習① 2. 色彩演習② (無彩色の配色) 3. 色彩演習③ (有彩色の配色) 4. 色彩演習④ (色彩に対する意識をもつ演習) 5. イニシャルエンボス① (デザイン) 6. イニシャルエンボス② (加工) 7. イニシャルエンボス③ (完成) 8. 味覚の色彩表現① (テーマの設定) 9. 味覚の色彩表現② (感覚の色彩化) 10. 味覚の色彩表現③ (着色) 11. 味覚の色彩表現④ (完成) 12. 日常にあるものの便化 (構図の工夫と検討) 13. 日常にあるものの便化 (デザイン化) 14. 日常にあるものの便化 (配色) 15. 日常にあるものの便化 (着色) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>必要な場合、プリントを随時配布する。 『色彩学の基本』 山中俊夫 文化書房博文社など。 制作には、課題によって画材等が必要となる。4つ切り画用紙 水彩絵の具道具 長い定規</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業開始後の、計画にしたがった円滑な授業進行を可能にするために、十分な準備をして臨むことが求められる。準備の内容は、課題ごとに通知する。</p>				
評価の方法 基 準	<p>課題に取り組む姿勢 (授業態度、後片付けも含む) 50% (授業目標 1, 3) 提出作品評価 (提出期限を守る) 50% (授業目標 2) これらの総合評定とする。</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>画材費実費必要。円滑な進行を可能にするために、準備物の忘れ物をしないように注意すること。 準備物の内容は、課題ごとに通知する。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	徳山 亜希子		
授 業 科 目	ビジュアルアート論 (専攻)	科目区分	関連科目	単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開講時期	
授業の主題 目 標	<p>本講義は、近隣の美術館・博物館・アートプロジェクトを題材に、はじめてそのジャンルに触れる人に対してどのように「もの」や「アイディア」を見せるかを考えることが目標である。具体的には次のながれで授業を行う。</p> <p>(1) 地域の美術館・博物館・アートプロジェクトについて調べてみる。</p> <p>(2) 実際に施設を見学することで鑑賞者の立場にたってみる。</p> <p>(3) 具体例として美術館での展覧会開催の流れについて知り、独自の企画案を検討してみる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (授業の説明) 2. 倉敷周辺の博物館・美術館について (1) 調査 3. 倉敷周辺の博物館・美術館について (2) 発表 4. 中四国のアートプロジェクトについて (1) 調査 5. 中四国のアートプロジェクトについて (2) 発表 6. 見学 (倉敷考古館を予定、現地集合で入館料 400 円を実費負担。鑑賞者の立場でものやアイディアの見せ方に触れてみる) 7. 見学の感想を共有。次回からの授業の流れの説明。 8. 企画を考える (どんなものやアイディアを見せたいか) 9. 企画を考える (企画書を作る) 10. 企画を考える (何を展示するか) 11. 企画を考える (会場を検討し、展示プランを作成してみる) 12. 企画を考える (宣伝の仕方を考える) 13. 企画を考える (安全の確保、関連イベントの立案など) 14. それぞれが立案した企画について話し合う 15. 全体のまとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>購入の必要はない。</p> <p>推奨図書：浦島茂世著『企画展だけじゃもったいない 日本の美術館めぐり』(ジービー)</p> <p>伊藤まさこ著『美術館へ行こう ときどきおやつ』(新潮社)</p>				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて各自で事前に調査を行う				
評価の方法 基 準	レポート (50%)、授業の際の発言 (50%)				
履 修 上 の 注 意	学外の見学 (1回) を実施。入館料 (400 円) が必要。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	クリストファー・ウォルトン		
授 業 科 目	ビジュアルデザイン演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1年次・後期
授業の主題 目 標	<p>イラストレーションでの表現に重点を置く。作品課題のテーマは年々変わります。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 明確で説得力のあるコンセプトを策定する。 2. 創意に富んだ内容とスタイルのイラストレーション作品とする。 3. 課題のテーマを十分理解したイラストレーション作品とする。 4. アナログ、デジタル両技術を調和させる。 5. 効果的なプレゼンテーション手法を用いる。 				
授業の内容 進 め 方	<p>各プロジェクトの時間的要件や授業の状況に応じて、課題計画を3つのプロジェクトから2つのプロジェクトに変更する可能性がある。</p> <p>プロジェクト1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科目の目標、課題計画の概説 2. イラストレーション課題作品1の「Background Research：概説・調査」 3. イラストレーション課題作品1の「Creation：制作」 4. イラストレーション課題作品1の「Retouching：修正」 5. イラストレーション課題作品1の「Completion, Presentation：完成、発表」 <p>プロジェクト2</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. イラストレーション課題作品2の「Background Research：概説・調査」 7. イラストレーション課題作品2の「Creation：制作」 8. イラストレーション課題作品2の「Retouching：修正」 9. イラストレーション課題作品2の「Completion, Presentation：完成、発表」 <p>プロジェクト3</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. イラストレーション課題作品3の「Background Research：概説・調査」 11. イラストレーション課題作品3の「Creation：制作」 12. イラストレーション課題作品3の「Retouching：修正」 13. イラストレーション課題作品3の「Completion, Presentation：完成、発表」 14. 課題作品まとめ 15. 最終的プレゼンテーション、全体講評・評価 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>『せかいのひとびと』ピーター・スピアー, 1980 『ABCの本』安野光雅, 1974 『Timeline』Peter Goes, 2015 上記に加えて授業課題に関連参考資料を Google Classroom で投稿する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>必ず、前回の授業内容を復習して、課題作品の要件に従っていることを確認すること。 授業前に Google Classroom の指示、資料、説明等を参考すること。 提出期限どおりに準備すること。</p>				
評価の方法 基 準	<p>作品制作 (80%) 作品プレゼンテーション・発表 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>アナログ作品の制作するため、色鉛筆セット、アクリル絵の具セット、ブラシセットを持参してください。 デジタルデータの保存するため、USB メモリ 16GB (以上) を持参してください。 作品発表と自己表現も授業の重要な要素の一つである。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之 (実務経験あり)		
授 業 科 目	立体制作論	科目区分	関連科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p>[授業の主題]</p> <p>1 ディスプレイデザインについて基礎知識と独自の視点を養い、比較・検討・議論を行う。</p> <p>2 そのために先ず、ディスプレイの成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じてディスプレイデザインの基礎知識を身に着ける。</p> <p>3 具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。</p> <p>4 授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。</p> <p>[到達目標]</p> <p>1 プレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、さらには、以下に挙げた参考図書中の基本的専門用語が運用できること。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ディスプレイデザインについて 2. ディスプレイデザインの研究事例解題 (解説) 3. ディスプレイデザインの研究事例解題 (討議) 4. ディスプレイデザイン実例の検討 (解説) 5. ディスプレイデザイン実例の検討 (見学) 6. ディスプレイデザイン実例の検討 (討議) 7. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 8. ディスプレイのグラフィックについて 9. ディスプレイのグラフィック制作 10. ロゴマークについて 11. ディスプレイデザインのライティングと光のオブジェについて 12. 制作するまとめ作品に関する発表・討議 13. 作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験 				
実務経験を 活かす内容	<p>インテリアデザイン事務所での実務経験を生かし、基礎知識と発想力を鍛える。</p> <p>発想意図を伝達するに必要な表現力 (スケッチ・制作・撮影) に係る実践的教育を行う。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考図書；『ディスプレイデザイン』(SD 選書)</p> <p>参考図書；『空間創造発想帖』(六耀社)</p> <p>参考図書；『VMD ビジュアルテキスト&トピックス』(佐藤昭年)</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。</p> <p>課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>月に2回程度の提出物 (20%)、制作姿勢 (20%)</p> <p>試験 (10%)、期末提出作品 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	松内 紀之 (実務経験あり)		
授 業 科 目	造形表現	科目区分	関連科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>[授業の主題]</p> <p>1 与えられた制限時間内でショウウィンドウのデザインと模型制作演習を行う。なお、必要スキルについては、適宜トレーニングカリキュラムを組み入れ、習得させる。</p> <p>2 収集された情報を元に討議を行い、討議から生まれた発想からアイデアスケッチを行う。</p> <p>3 数々のアイデアを集約した模型を計画・制作し、制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。</p> <p>[到達目標]</p> <p>1 授業成果をまとめるプレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚および、服飾販売に係るアイデアが含まれていることを目標とする。</p> <p>2 成果は、デザイン学会学生セッション等への出品を目標とする。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の概要説明・ショウウィンドウに関する討議 2. ショウウィンドウについて (講義) 3. ショウウィンドウの実例資料収集 4. 採集画像について発表・討議 5. ショウウィンドウ模型 (1) 制作にむけたアイデアスケッチと討議 6. ショウウィンドウ模型 (1) 制作 7. 制作したショウウィンドウ模型の撮影, 作品のまとめ 8. 提案したショウウィンドウについて発表・討議 9. ショウウィンドウ模型 (2) 制作にむけたアイデアスケッチと討議 10. ショウウィンドウ模型 (2) 制作 11. 制作したショウウィンドウ模型の撮影, 作品のまとめ 12. 提案したショウウィンドウについて発表・討議 13. 作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験 				
実務経験を 活かす内容	<p>インテリア系デザイン事務所での実務経験を生かし、発想力を鍛える。</p> <p>空間発想の意図を伝達するに必要な表現力 (スケッチ・作図) に係る実践的教育を行う。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考図書;『空間デザイナー』(六耀社)</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>授業中に完成しなかった課題は次回授業までの宿題として課すことがある。</p> <p>課題制作のための道具と材料を準備する必要がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>月に2回程度の提出作品 (20%), 制作姿勢 (20%)</p> <p>試験 (10%), 期末提出作品 (50%)</p>				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	大原 啓市・廣野 誠		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題></p> <p>(1) 動画作成と動画公開の手法について講義する。</p> <p>(2) Web サイトとWeb アンケートの集計分析について講義する。</p> <p>(3) コンピュータ, インターネット利用の視点から必要不可欠となるポイントについて講義する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 動画編集とWordPress と Google によるサイト構築とWEB アンケート方法について習得する。</p> <p>(2) 基本的な論文作成術とテーマ設定時での試行錯誤をどのように行うか習得する。</p> <p>(3) 文献検索・パソコンとインターネット利用方法を身につける。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのログインGoogle Workspace の活用 (担当: 大原) 2. Adobe Premiere Pro を利用した動画作成:テロップ・カット編集 (担当: 大原) 3. Adobe Premiere Pro を利用した動画作成:スマホ動画編集 (担当: 大原) 4. YouTube チャンネルブランドアカウントと動画配信 (担当: 大原) 5. YouTube チャンネルと OBS によるライブ配信・動画配信 (担当: 大原) 6. WordPress.com によるWordPress サイトとGoogle サイトについて (担当: 大原) 7. Google Workspace を利用したWeb アンケートフォーム作成 (担当: 大原) 8. Google Workspace を利用したWeb アンケート集計分析 (担当: 大原) 9. 論文の構成:「問い」と「答え」(担当: 廣野) 10. 文献の探し方, 図書館の活用 (担当: 廣野) 11. 社会調査 (1): 量的調査法 (担当: 廣野) 12. 社会調査 (2): 質的調査法 (担当: 廣野) 13. 論文の表現 (1): 専門用語, 正確な表記・文体 (担当: 廣野) 14. 論文の表現 (2): 明晰な文章の展開, 書き手の責任 (担当: 廣野) 15. 論文作成とまとめ (担当: 廣野) <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	論文・レポートの基本: 石黒 圭 (著); 日本実業出版社				
準備学習の 具体的内容	指定した教科書を熟読して授業にのぞむこと。				
評価の方法 基 準	授業態度 (20%) 授業中で行う演習課題 (80%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	山根 智恵		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1,2年次・前期
授業の主題 目 標	話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学び、さらに授業を通して実践力も養うことを目標とする。話しことばの面では、基本的なことからについて理解を深めるとともに、スピーチ・電話応対・ディベートを行うことで、コミュニケーション能力を高めることをめざす。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認するとともに、小論文・レジュメ・手紙などの実作を通して文章表現力の向上をめざす。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバス説明, ポートフォリオについての説明, 第1課 (日本語の話し方, 振り返り) 2. 第1課 (日本語の話し方 本文) 3. 第4課 (スピーチをしよう) 4. 自己PR (第1グループ), 第2課 (日本語の表記 振り返り) 5. 自己PR (第2グループ), 第2課 (日本語の表記 本文) 6. 自己PR (第3グループ), 第3課 (文章表現と文章構成 振り返り) 7. 自己PR (第4グループ), 第3課 (文章表現と文章構成 本文) 8. 自己PR (第5グループ), 第5課 (小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り) 9. 第5課 (小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文) 10. 第6課 (敬語を学ぼう 振り返り 本文) 11. 第6課 (敬語を学ぼう 練習問題) 12. 第7課 (手紙を書こう 振り返り 本文) 13. 第8課 (電話をかけよう 振り返り 本文) 14. 第9課 (ディベートをしよう 振り返り 本文) 15. 第9課 (ディベートをしよう 実践) 自己評価 他者評価 <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 『新版 基礎から学ぶ日本語表現法』(山根智恵・久木田恵, 大学教育出版) 参考図書 『敬語再入門』(菊池康人, 講談社学術文庫) 『新しい国語表記ハンドブック第7版』(三省堂編修所編, 三省堂)				
準備学習の 具体的内容	毎回授業後に出された課題を, 原則次の授業までに行い, 提出する。				
評価の方法 基 準	(1) 授業への取り組み (10%) (2) ポートフォリオ (90%) (第1課・第2課・第3課・第4課・第5課・第6課・第7課・第8課・第9課 各10%)				
履 修 上 の 注 意	なし。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活文化環境論		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	<p>【主題】生活文化や生活環境を考えることは単なる知識の集積ではなく、人やモノの関係性をしっかり観ることであり、生き方をデザインすることである。</p> <p>本講義においては各担当教員が、私たちを取り巻く日常を多様な観点から、またその関係性を紐解きながら問題提起し、受講者が新たな価値基準を発見する授業である。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活環境や文化に対し、多様な観点から理解する力をもつこと。 生活の中における問題点について独自の視点から、自分の意見が言える。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会政策①：大学生の就職活動とその実態(担当：廣野) 2. 社会政策②：社会政策の意義と歴史、社会政策の考え方 (担当：廣野) 3. 社会政策③：労働者の生活、賃金、労働組合、労働運動 (担当：廣野) 4. 日本の絵画史料およびその他資料から“モノによる事物の区別・意味づけ”を読み取る (担当：松内) 5. 室内空間から都市空間に及ぶ事物の区別・道具立て(担当：松内) 6. 祭礼空間に見る事物の区別・道具立て(担当：松内) 7. WordPressによるWEBサイト構築(担当：大原) 8. Society 5.0・AI・深層学習・機械学習・量子暗号(担当：大原) 9. 消費者行動において重要な「記憶」を学ぶ(担当：岩崎) 10. 消費者の態度形成に及ぼす要因とその影響を理解する(担当：岩崎) 11. 衣服衛生の立場から、人間と衣服環境の望ましい関係を考える。(担当：佐藤) 12. 衣服の機能と快適性・着心地 -肌着、ベビー・キッズアパレル(担当：佐藤) 13. 衣服の機能と快適性・着心地 -UV 対策アパレル, 学校制服(担当：佐藤) 14. 科学的、工学的視点から生活文化、生活環境を考える(担当：道明) 15. ものづくりにおける品質や技術、ブランドについて(担当：道明) 16. ものづくりと環境問題について(担当：道明) 17. カルト映画を通じて、時代や社会を考察する(担当：田中) 18. 1950～60年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 19. 1970年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 20. 海外の芸術・文化活動の例(担当：趙) 21. 日本の芸術・文化活動の例(担当：趙) 22. 現代における問題意識について(担当：趙) 23. 日本の文化や環境を視点として、精神を患わずことと社会について考察する (担当：上村) 24. 坂口安吾の日本文化私観について考察する。(担当：上村) 25. 現在の日本の文化や環境について具体的な事例から考察する。レポート提出 (担当：上村) 26. 衣服の入手方法と服飾への価値観の変化について(担当：乾) 27. 衣生活の振り返りにより、服飾の今日的意義を考える(担当：乾) 28. ファッション産業とトレンド (担当：武永) 29. ファッションの歴史から見るトレンドとトレンドサイクル (担当：武永) 30. トレンドの分析と取り入れ方 (担当：武永) <p>各教員の担当順は都合により変更することがある。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>各担当教員が資料を配布する。</p> <p>参考図書:松生勝編著『アパレル科学概論』朝倉書店, 坂口安吾『日本文化私観—坂口安吾エッセイ選』(講談社文芸文庫)講談社, 原山麻美子『令和04年 IT パスポートの 新 よくわかる教科書』技術評論社</p>				
準備学習の 具体的内容	各担当教員が配付する資料や参考図書などの該当箇所を参照し、学習内容に応じて適宜、予習・復習を行うこと。				
評価の方法 基 準	提出課題(80%) 受講態度(20%)				
履 修 上 の 注 意	学位授与機構に申請する際の「家政学に関する総合的な科目」に相当する。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	生活情報論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 生活情報における私たちの周囲にある物事を観察しながら、テキストを読んでいく。社会の変化とともにある、私たちの生活における情報のありようについて知り、考察する。</p> <p><到達目標> 生活を取り巻く情報というあいまいなものの存在について理解することができる。 情報がつくっているものごとについて理解することができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 情報とはなにか、生活における情報について 2. 知識と常識 3. 脳の中の入出力 4. 個性について 5. 自己の情報化 6. 意識と言葉 7. 脳内の活動 8. 身体について 9. 共同体について 10. 無意識について 11. 脳の操作 12. 教育について 13. 人ともものこころについて 14. コミュニケーションについて 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料 『バカの壁』養老孟司 (新潮新書), 『こころの情報学』西垣通 (ちくま新書), 『わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か』平田オリザ (講談社現代新書)</p>				
準備学習の 具体的内容	授業で配付された資料に目を通し、プレゼンテーションやレジユメの準備, 課題に取り組むこと。毎回ディスカッションを行うので, 指定された箇所をよく読んでくること。				
評価の方法 基 準	プレゼンテーション (60%) 課題 (40%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇 (実務経験あり)		
授 業 科 目	生活福祉論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p>(授業の主題) 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の意義について理解できる。 2. 社会福祉の法制度について説明できる。 3. 社会福祉の現状と課題について理解できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉と関連法 3. 子ども家庭福祉の現状 4. 子ども家庭福祉の課題 5. 社会保障制度の現状 6. 社会保障制度の課題 7. 障がい児・者福祉の現状 8. 障がい児・者福祉の課題 9. 地域福祉の現状 10. 地域福祉の課題 11. 低所得者の福祉の現状 12. 低所得者の福祉の課題 13. ソーシャルワーク 14. 高齢者福祉の現状 15. 高齢者福祉の課題 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林 2020年 必要に応じて資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習・復習する。 授業の中で、調べることが必要な事柄について調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	受講態度 (10%)、発表・レポート課題 (60%)、コメントシート (30%)				
履 修 上 の 注 意					

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	パターンメイキング論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>パターンメイキングには、デザイン画からデザインの意図をくみ取り、縫製方法や着用者の着心地など総合的に判断し、パターンを作成する能力が必要である。</p> <p>【授業の主題】 本授業ではパターンメイキングの基礎理論と、デザイン展開における応用理論を理解し、デザインパターンを製図できる能力を養う。 前半は基礎理論をシーチング等で検証し理解を深め、後半はドレーピング技法を学び、デザインへの感性を磨きデザイン性の高い被服の表現方法を知る。</p> <p>【到達目標】 1. シンプルなデザインのスタイル画をみて、パターンメイキングができる。 2. ドレーピングにより、ドレスが表現できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>基礎理論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身頃の原型理論 2. 身頃のドレーピング 3. 人体と原型比較 4. 袖と袖付けの関係性 5. 袖のデザイン比較 6. 衿の構成と特徴 7. 衿のデザイン比較 8. 人体とスカート 9. スカートのデザイン比較 10. 人体とズボン 11. ズボンのデザイン比較 <p>応用理論及び、ドレーピング</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ドレスのドレーピング 身頃 13. ドレスのドレーピング スカート 14. ドレスのデザイン比較 15. まとめと試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	適宜プリントを配布します。指示に従ってファイリングすること。 参考書：『文化ファッション体系 服飾造形講座(1) 服飾造形の基礎』文化出版局				
準備学習の 具体的内容	前回の内容を復習してくること。				
評価の方法 基 準	課題 (50%) 試験 (30%) 受講態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	短期大学において、服飾造形に関する授業とパターンメイキングの授業を履修していることが望ましい。 提出物を期限日に遅れた場合は評価できないことがあります。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実技 I	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 後 期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 自由にデザインをしたオリジナルジーンズを制作する。 制作を通じ、ジーンズの構造や縫製方法およびデニムの加工方法を習得するとともに、倉敷や児島の文化について学びを深める。特殊ミシンを使用した縫製工程は倉敷市児島産業振興センターの繊維産業ワークスペースを活用し、より実践的なジーンズ縫製の能力を身につける。</p> <p><到達目標> (1)ジーンズの構造や縫製方法,加工方法を理解している。 (2)デザインに合わせたジーンズが縫製できる技術を身につけている。 (3)倉敷や児島の文化やそれに伴う技術について深く理解している。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジーンズの構造・副資材について 2. デザイン画の作成 3. パンツ基礎線の作図 4. オリジナルジーンズへの型紙展開 5. デニムの裁断・印つけ 6. 前パンツの作成 7. 前たての作成 8. 後ろパンツの作成 9. 股縫いと脇縫い 10. ウエストベルトとベルトループ 11. 特殊ミシンによる縫製 ※学外活動を予定 12. デニム加工 ※学外活動を予定 13. 装飾・仕上げ 14. レポート作成 15. 作品撮影・発表 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(9)メンズウェア I (体型・シャツ・パンツ)』文化出版局 参考資料 『文化ファッション体系 服飾造形講座(2) スカート・パンツ』文化出版局 『ジーンズソムリエ資格認定試験公式テキスト』岡山県アパレル工業組合 (株) 児島ファッションセンター				
準備学習の 具体的内容	前回の工程までできていない箇所はやっておくこと。 必要な材料,道具は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (60%) レポート (20%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	特殊ミシンによる縫製とデニム加工の回は現地への集合で、学外にて行います。 体調管理に気をつけてご参加下さい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	乾 眞理子		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅱ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>服飾は時代と共に変遷し、構成もそれにつれて変化しているが、個人にとって大切に、長く着続けたい服とはどのような服であろうか。個々が満足できる服を制作するためには様々な技術と豊富な知識が必要となってくる。</p> <p>【授業の主題】 過去の衣服史や民族衣装の知識を身につけつつ、より高度な理論・技術・表現力を養う。体型に合わせた衣服製作を通して、より快適なパターンづくり、応用的縫製方法、特殊素材と縫製機器の取り扱いなどを知る。</p> <p>実習課題としてはジャケットもしくはコートを作成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 裏付きジャケットもしくはコートを設計及び縫製し、作り上げることができる。 デザインにあった、布・縫製技法を選択できる。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション ジャケットの歴史と形状について <ジャケット・コートの制作> 計測・パターン作成(身頃) パターン作成(袖・衿) 裁断および印付け 仮縫い 試着・パターン修正 裏地裁断・接着芯張 本縫い(1) 身頃・ポケット 本縫い(2) 衿作り 本縫い(3) 衿付け 本縫い(4) 袖作り 本縫い(5) 袖付け 本縫い(6) ボタンホール等 仕上げ 着装・課題提出 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>適宜プリントを配布する。</p> <p>『文化ファッション大系 改定版・服飾造形講座4 ジャケット・ベスト』文化服装学院編 文化出版局 参考図書『(文化出版局MOOKシリーズ) 誌上・パターン塾 Vol.1.5 ジャケット&コート編』文化出版</p>				
準備学習の 具体的内容	必要な材料は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	<p>提出課題 (60%) レポート (20%) 受講態度 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>課題提出日を厳守すること。 授業時間外の作業が発生することがある。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	武永 佳奈		
授 業 科 目	服飾造形実技Ⅲ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	2年次・後期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> フォーマルウェアの製作を通じ、コンセプトに基づいた独創的なデザインのパターン展開と、製作方法を理解する。フォーマルウェアに適切な形、素材についても知識を深め、デザインに取り入れる方法を習得する。また、製作した作品とコンセプトのプレゼンテーションを行うことにより、説得力のあるデザインを発信できる能力も身につける。</p> <p><到達目標> (1) フォーマルウェアの定義や適切な形や素材について理解している。 (2) コンセプトに基づいたフォーマルウェアのデザイン・製作を行うことができる。 (3) 高級素材に適した仕立ての処理を行うことができる技術が身につけている。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. フォーマルウェアの定義と素材について・コンセプトの設定 2. ムードボード作成 3. デザイン画の作成 4. パターン製作(1)身頃・スカート 5. パターン製作(2)袖・衿 6. サンプル製作とパターン修正 7. 裁断 8. 接着芯・印つけ 9. 身頃の縫製 10. スカートの縫製 11. ファスナー付け 12. 袖・衿の縫製 13. 裏地の縫製 14. 装飾・仕上げ 15. プレゼンテーションと作品撮影 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『文化ファッション体系 服飾造形講座(3) ブラウス・ワンピース』文化出版局 『文化ファッション体系 服飾造形講座(6) 服飾造形応用編Ⅰ』文化出版局 参考書 『文化ファッション体系 服飾造形講座(4) ジャケット・ベスト』 『誌上・パターン塾 vol.4 ワンピース編』 その他、適宜配布。				
準備学習の 具体的内容	必要な材料, 道具は各自準備してくること。				
評価の方法 基 準	課題作品 (50%) プレゼンテーション (30%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	服飾造形実技Ⅰ (1年次・後期)・Ⅱ (2年次・前期) を履修していることが望ましい。				

学科	服飾美術専攻	担当教員	高橋 敏子		
授業科目	手工芸論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開講時期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目標	<p>【主題と概要】 この授業では様々な地域に発展した手工芸の歴史や、その技法についての講義をします。特に編物について、どのようにして生まれ、育てられ今日に至ったか、その歩みの歴史について講義をします。</p> <p>【到達目標】 手工芸の歴史、技法の知識を生かし、実生活を豊かに送ることを目標とします。また次世代に編物を継承していくために、実際に伝統ある技法を習得することを目標とします。</p>				
授業の内容 進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 手工芸の歴史(ヨーロッパ) 3. 手工芸の歴史(ヨーロッパ・イングランド諸島) 4. 手工芸の歴史(ヨーロッパ・アイルランド地方) 5. 編物の歴史(ヨーロッパ) 6. 編物の歴史(ヨーロッパ・イングランド諸島の歴史ある模様の研究) 7. 編物の歴史(ヨーロッパ・アイルランド発祥とされるレース編みの研究) 8. クラシカルな編物技法(アラン模様の技法を習得する) 9. クラシカルな編物技法(アラン模様の技法でサンプルを作成する(縄編み模様)) 10. クラシカルな編物技法(アラン模様の技法でサンプルを作成する(ハニカム模様)) 11. クラシカルな編物技法(アラン模様の技法でサンプルを作成する(ジグザグ模様)) 12. クラシカルな編物技法(タティングレースの技法でサンプルを作成する(リング編み)) 13. クラシカルな編物技法(タティングレースの技法でサンプルを作成する(ブリッジ編み)) 14. 実生活への有用性 15. まとめ 				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教材	文部科学省後援日本編物検定協会 手引き「レース1級」 適宜プリント配布。				
準備学習の 具体的内容	テキストの該当部分を予習復習する。				
評価の方法 基準	レポート提出(50%) 提出物の評価(25%) 授業への取り組み方(25%)				
履修上の 注意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1,2年次・後期(隔年)
授業の主題 目 標	<p>[主題] 感性豊かな衣服設計を目標とし、温冷感覚、触圧感覚、視覚、聴覚などの諸感覚器官の構造と機能、感覚の主観判定、感覚と生体情報計測の基礎を学習する。そして、それらの感覚の判定に基づいた被服設計について考えることを目的とする。</p> <p>[到達目標] 本授業を通し、ヒトの生理反応について理解を深める。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレルの評価 —感覚と感性— 2. 生体のシステム(1) 中枢神経系 3. 生体のシステム(2) 大脳の機能 4. 温冷感覚 5. 触圧感覚 6. 視覚 7. 聴覚 8. 官能検査法 計測(1) 主観申告 9. 計測(2) 脳波 10. 計測(3) 眼球電図, 筋電図 11. 計測(4) 心電図 12. 計測(5) 体温, 皮膚温 13. 事例(1) 触・圧刺激(衣服圧)と筋疲労 14. 事例(2) 触・圧刺激(衣服圧)と自律神経系・中枢神経系の反応 15. まとめ・筆記試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>テキスト：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 参考図書：斉藤秀子・呑山委佐子編著『快適服の時代』おうふう 田村照子編著『衣の科学シリーズ 衣環境の科学』建帛社 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス</p>				
準備学習の 具体的内容	事前学習として、テキストに目を通しておくこと。				
評価の方法 基 準	<p>受講態度 (20%) 筆記試験 (80%)</p>				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学実験」受講希望者は、この授業を必ず履修すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	佐藤 希代子		
授 業 科 目	被服生理学実験		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実験	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>[主題] 快適な被服の評価をするために、被服等を着用した時の温冷感、圧迫感、肌触りなどの心理量、生理量に関する測定や評価を行い、実験計画、評価手法、解析手法について学習し、生体反応について理解を深める。基本的な測定法や電気生理学を用いた測定法を用い、快適な被服の評価、快適環境の評価についての実験を集中的に行う。実験テーマについて議論し、実験計画、評価方法、解析方法を考え、学生間相互に被験者となり実験を行う。受講者全員が1つのテーマで実験を行い、各人にレポートの提出を求める。</p> <p>[到達目標] 本授業を通して、生体についての理解を深める。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服に関する問題点について考え、レポート提出。 2. 提出されたレポートを基に議論し、実験テーマを決定する。 3. 実験内容、評価方法、測定項目の検討。 4. 実験内容、評価方法、測定項目の検討および準備。 5. 実験1 (同テーマで被験者を数人確保し、5回程度の実験を実施) 6. 実験1の解析と反省。実験手順・改善点の確認。 7. 実験2 (実験1のテーマで実験1とは異なる被験者にてのデータ収集) 8. 実験3 (実験1のテーマで実験1・2とは異なる被験者にてのデータ収集) 9. 実験4 (実験1のテーマで実験1～3とは異なる被験者にてのデータ収集) 10. 実験5 (実験1のテーマで実験1～4とは異なる被験者にてのデータ収集) 11. データの解析 12. データの解析, 反省, 実験レポートの作成 13. 実験レポートの作成 14. レポート発表・ディスカッション 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	佐藤希代子著「被服生理学実験プリント」を授業時に配布する。 参考図書：日本家政学会被服衛生部会編『アパレルと健康』井上書院 鈴木浩明著『快適さを測る』日本出版サービス				
準備学習の 具体的内容	婦人体温計を各自準備し、8月頃より基礎体温をつけること。 (女性被験者は黄体期に実験。この黄体期を把握するための基礎体温測定である。)				
評価の方法 基 準	受講態度 (20%) レポート提出 (50%) 発表 (30%)				
履 修 上 の 注 意	「被服生理学」「被服衛生学」を受講のこと。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	道明 伸幸		
授 業 科 目	アパレルコンピュータ論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>[授業の主題] アパレル分野におけるコンピュータ利用はこれまではアパレル CAD および CAM が主なものであったが、インターネットの普及とともにアパレル業界においても電子商取引、企業間ネットワークが急速に進みつつある。また、アパレル CAD・CAM 等においても 3DCAD, レーザー自動採寸システム, 衣服シミュレーションなどの新しい技術が生まれている。本授業では、これらのテーマを学修する。</p> <p>[到達目標] 将来アパレル業界で活躍するためにこれらについてその背景と原理を理解し、実際に接したとき十分に対応できるように準備する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. コンピュータとインターネットの概要 3. 製造業と IT 4. 流通, 小売と IT 5. ネット通販 6. アパレル CAD・CAM の概要, 衣服シミュレーション 7. コンピュータ 3D 計測システム 8. アパレル工学と自動縫製ロボットへの道 9. e テキスタイル, ウェアラブルコンピュータ 10. 衣服シミュレーション DressingSim 型紙生成, 縫製情報付与 11. ボディへの着せつけとシミュレーション計算 12. 衣服シミュレーション アニメーション生成 13. テキスチャーマッピングとビデオ生成 14. アパレル CAD による型紙の入力 15. 総まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>必要に応じてプリントを配布。 参考図書：キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2022 (日経 BP 社)</p>				
準備学習の 具体的内容	事前にテキスト等の該当箇所をよく読んでおくこと。				
評価の方法 基 準	<p>レポート (80%) 受講態度 (20%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	繊維・ファッション産業論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1,2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p>本講義では、資本主義社会の中で繊維・ファッション産業が発達した歴史的な背景を踏まえながら、需要サイドと供給サイドのそれぞれから構造や機能、消費生活との関係、地域産業との関係、各政策との関係を考察することが目的である。ファッションの自由と消費について考えること、生活産業政策あるいは中小企業政策としての繊維産業政策の方向性について考え、提言できるようになることが到達目標である。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ファッションの多様性と市場化 3. ファッションと消費 (1) ファッションの自由を考える 4. ファッションと消費 (2) ファッションの消費を考える 5. 日本の繊維・ファッション産業 (1) 産業構造 6. 日本の繊維・ファッション産業 (2) 地場産業 7. 日本の繊維・ファッション産業 (3) 児島の事例 8. 日本の繊維・ファッション産業 (4) 井原の事例 9. 日本の繊維・ファッション産業 (5) 福山の事例 10. グローバル化とファッション (1) 海外で生産される衣服 11. グローバル化とファッション (2) 産業の空洞化 12. グローバル化とファッション (3) ファストファッション 13. 繊維・ファッション産業と環境問題 (1) 衣服の廃棄問題 14. 繊維・ファッション産業と環境問題 (2) アップサイクルとリサイクル 15. 講義まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	藤田結子 他編 (2017) 『ファッションで社会学する』有斐閣 高木陽子 他 (2022) 『越境するファッション・スタディーズ』ナカニシヤ出版 加藤秀雄 他 (2020) 『繊維・アパレルの構造変化と地域産業—海外生産と国内産地の行方』文眞堂 加藤秀雄 他 (2022) 『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』文眞堂				
準備学習の 具体的内容	繊維・ファッション産業を多角的にとらえること。 新聞やWebなどで日々のニュースを知り、自分なりの考えをもつこと。				
評価の方法 基 準	期末レポート (30%) 授業内課題 (70%)				
履 修 上 の 注 意	講義内容は、受講生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 フィールドワーク (もしくはバーチャルツアー) を実施することがある (土日実施の可能性もある)。 地域経済論と連続して履修することが望ましい。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	廣野 誠		
授 業 科 目	地域経済論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1,2年次・前期(隔年)
授業の主題 目 標	<p>本講義では、地域の経済や社会を理解する上で必要となる基礎的な理論を踏まえた上で、持続可能な地域経済を考える上で必要なことは何か考察することが目的である。到達目標は、グローバル化について理解すること、グローバル経済化における地域政策の問題点について理解すること、政府の失敗について理解することを通じて、客観的視点から地域の諸問題を把握できるようになることである。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 人間の生活と地域 3. グローバル化と地域 (1) 国際経済 4. グローバル化と地域 (2) 日本経済 5. 地域開発の歴史(1) 地域開発の枠組み 6. 地域開発の歴史(2) 企業誘致の問題点 7. 地域開発の歴史(3) 水島コンビナートの事例 8. 地域内の経済循環 (1) 地域資源 9. 地域内の経済循環 (2) 産業連関 10. 地域内の経済循環 (3) 地域内再投資と経済循環 11. 国家のグローバル戦略と地域経済 (1) 選ばれる地域と衰退する地域 12. 国家のグローバル戦略と地域経済 (2) 都市一極集中 13. 大規模自治体と小規模自治体 (1) 地方自治の役割を考える 14. 大規模自治体と小規模自治体 (2) 行財政改革を考える 15. 講義まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>木下 齊 (2018) 『地元がヤバい…と思ったら読む 凡人のための地域再生入門』ダイヤモンド社 金子勝 (2019) 『平成経済衰退の本質』岩波書店 岡田知弘 (2020) 『地域づくりの経済学入門 地域内再投資力論』 宇都宮浄人 他 (2022) 『まちづくりの統計学』学芸出版社</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>地域の経済、社会、文化、芸術などに興味をもって授業に臨むこと。 新聞やWebなどで日々のニュースを知り、自分なりの考えをもつこと。</p>				
評価の方法 基 準	<p>期末レポート (70%) 授業内課題 (30%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>講義内容は、受講生の興味関心や社会情勢の変化などによって変更となる場合がある。 フィールドワーク(バーチャルを含む)を実施する。土日実施の場合や交通費が必要となる場合がある。 繊維・ファッション産業論と連続して履修することが望ましい。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	流通論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・前期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 流通の視点から、これらに関する基礎研究、および事例研究について理解する。</p> <p><到達目標> 1. マーケティング活動に従い流通について理解ができている。 2. 企業が取り組む流通に関する事例の理解ができている。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス (流通とは) 2. 百貨店と総合スーパー～購買方法の革新 3. 食品スーパーとコンビニエンスストア～新小売業態の台頭1 4. ディスカウントストアとSPA～新小売業態の台頭2 5. 商店街とショッピングセンター～小売業の集積 6. 小売業態とは何か～小売業と業態技術パッケージ 7. 小売を支えるロジスティクス～物流活動の統合的管理 8. インターネット技術と新しい小売業態～新業態技術パッケージ 9. 小売を支える卸～卸売業者に期待される今後の役割 10. 流通構造とその変容～流通成果を決定する流通構造 11. 日本型取引慣行～流通系列化と取引制度 12. 小売を中心とした取引慣行～メーカーから小売へのパワーシフト 13. 売買集中の原理と品揃え形成～商業者の存在理由 14. 商業とまちづくり公私が共存する理想的なまちづくり 15. まとめ・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考文献】</p> <p>石原武政他, 2018, 『1からの流通論 (第2版)』 碩学舎 原田英生他, 2010, 『ベーシック流通と商業-現実から学ぶ理論と仕組み』 有斐閣アルマ</p>				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で、特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験(80%) 中間レポート(20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	岩崎 之勇		
授 業 科 目	ブランド論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	<p><授業の主題> マーケティングにおけるブランドの役割, ブランドに関する基礎および事例研究について理解する。</p> <p><到達目標> (1)ブランドマーケティングについて全体像を理解できている。 (2)ブランドマーケティングで使われる基本的用語を理解できている。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要・ガイダンス, ブランドとは 2. ブランドマーケティングの考え方 3. ブランドメンテナンスとブランド再構築 4. 顧客視点によるブランド価値評価 5. 新ブランドの開発 6. ブランド名の開発パターン 7. 企業ブランドとは 8. ブランド体系とカテゴリー 9. ブランドコミュニケーション 10. ブランド広告のフレーム 11. ブランド調査方法 12. ブランドの潜在価値 13. ブランドプロジェクトの全体設計 14. ブランドマーケティングの留意点 15. まとめ・試験 				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考文献】 株式会社インプレス R&D POD 出版サービス, 2020, 「ブランディングの教科書」羽田康祐・K_bird 博報堂ブランドコンサルティング, 2012, 『図解でわかるブランドマーケティング』日本能率協会マネジメントセンター ブレインゲイト, 2002, 『図解でわかるブランディング』日本能率協会マネジメントセンター</p>				
準備学習の 具体的内容	各授業で配ったプリントを復習する。 授業の中で, 特に調べてくる事項についての調査を求める場合がある。				
評価の方法 基 準	試験 (80%) と中間レポート (20%) により評価する。				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート&メディア論		科目区分	専門科目	2 単 位
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期(隔年)
授業の主題 目 標	<p>【主題と概要】20世紀以降、メディアの発展に伴うアート&デザインの世界や、変遷を理解する。現代におけるテクノロジーの発展などの重要事柄などを絡め合いながらアート・デザインのあり様を思索する。事例研究を通じてアートとメディアとの関わりを深めていく。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートとデザインにおけるテクノロジーの影響について深い理解をもつこと。 ・課題を通じて各自がアート&デザインについて様々な角度から理解を深めること。 ・テクノロジーの影響によるデザインとアートの今後の展望についての各自の見解をもてること。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 芸術と技術 3. 抽象とテクノロジー 4. キネティック・アート 5. 現代彫刻とテクノロジー 6. キネティック・アートからテクノロジー・アートへ 7. 映像とテクノロジー 8. テクノロジーと環境芸術 9. インタラクティブ・アートとテクノロジー 10. テクノロジー・アートの展望 11. 事例研究：日本の作家①探求 12. 事例研究：日本の作家②発表 13. 事例研究：海外の作家①探求 14. 事例研究・海外の作家②発表 15. まとめおよびレポート作成 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『テクノロジー・アート』（三井秀樹，青土社，1994） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	テキストは必ず持参すること。 授業の際に告知する。				
評価の方法 基 準	プレゼンテーション (40%) レポート(40%) 授業態度 (20%)				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 標 目	<p>【主題と概要】21 世紀、現代における美術環境の変化や問題意識に対する理解を深めると同時に、環境・空間に対する観察力や造形的アプローチ、幅広い観点から素材に対する応用力を極める。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自におけるアートコンセプトや、体験的な造形要素を深く理解する。 ・環境およびメディアの観点からアート作品を制作・展示する能力をもつこと。 ・視覚芸術における 2 次元および 3 次元的の形態によって自らのアートの制作及び、造形技法の発掘力をもつこと。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 環境とアートについて 3. 環境とアートについて 発想 4. ラフスケッチ画・制作案の発案 5. 制作案の検討と素材集め 6. 環境とアートについて 作品の制作 7. 環境とアートについて 作品の仕上げ 8. 作品のプレゼンテーション 9. メディアとアートについて 10. メディアとアートについて 発想 11. ラフスケッチ画の完成・制作案の作成 12. 素材集め 13. メディアとアートについて 作品の制作 14. メディアとアートについて 作品の仕上げ 15. 作品の展示とまとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『美術からアートへ』（三田村峻右著、鳳山社、1993） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	作品 (70%) プレゼンテーション (20%) 授業態度 (10%)				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、毎回持参。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	趙 採 沃		
授 業 科 目	アート演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年 次 ・ 前 期
授業の主題 目 標	<p>【主題と概要】身体を造形要素として理解するため、様々な芸術ジャンルにおける作品を事例として取り上げ、ディスカッションを交えながら身体表現とアート作品を解説する。その上、身体をめぐる諸造形的観点からの考察を深め、作品の実演・記録までを実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の観点から様々な身体の機能や、感覚的要素についての思考力・感受性を深く理解する。 ・アート作品の制作及びそれぞれの造形的技法の発掘・発展させること。 ・身体を媒体にした作品制作とプレゼンテーション力・記録と編集および技術力などを主体的に行われる能力をもつこと。 				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 20 世紀以降、現代美術における身体とアートについて 3. 身体を媒体にしたアートについて (パフォーマンス、イベント、ハプニングなど) 4. 作品の発想：ディスカッション 5. 作品の企画：スケッチ画・制作案作成 6. 作品の制作①素材あつめ 7. 作品の制作②表現力と技術の発掘 8. 作品の制作③試し制作 9. 作品の制作④本制作 10. 作品のプレゼンテーション (実演) 11. 作品のプレゼンテーション (記録) 12. 作品のプレゼンテーション (1 回目編集) 13. 作品のプレゼンテーション (2 回目編集) 14. 作品の発表 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	『冷たいパフォーマンス』（清水徹+山口勝弘，朝日出版社，1983） 必要に応じて資料配布および作品・著書紹介。				
準備学習の 具体的内容	必要に応じて授業の際に告知。				
評価の方法 基 準	作品 (50%) プレゼンテーション (40%) 授業態度 (10%)				
履 修 上 の 注 意	クロッキー帳など、基本的な描画道具が必要なため、各自で準備し、持参すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・前期
授業の主題 標 目	<p>学生はデザインに関する情報収集及びデザイン計画の展開を学び、各自が自由にテーマを選択し、ファッション及びインテリアに関連した独創的なデザインとして発展、展開する。デザイン表現方法の拡大のため多様なスキルやテクニックを駆使し体験する。各課題に対してテーマに基づいたデザイン計画を立て、プレゼンテーション資料作成を通じながらデザインプロセスを修学し、表現する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) デザイン企画を考えるためのプロセスを修学する。 (2) テーマに基づいたデザイン計画を遂行する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>各自テーマ設定を行い、ディレクションの企画を計画し、インテリアにおけるデザイン企画制作とウェアブルにおけるデザイン企画制作を行う。</p> <p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、企画課題説明 2. ディレクションのための調査・序章 3. ディレクションのための調査・分析 4. ディレクションのための調査・展開 5. ディレクション企画計画・序章 6. ディレクション企画計画・展開 7. ディレクション企画課題制作・序章 8. ディレクション企画課題制作・展開 9. ディレクション企画課題制作・編集 10. ディレクション企画課題講評会 11. デザイン企画調査 12. デザイン企画課題制作・序章 13. デザイン企画課題制作・分析 14. デザイン企画課題制作・展開 15. デザイン企画課題講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	「インテリアトレンドビジョン」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	テキスタイルデザイン演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・前期
授業の主題 目 標	<p>学生はものづくりのプロセスを学び、作品課題を遂行するための資料収集、試作などを繰り返し体験する。各自自由にテーマを選択し、デザイン及びアートの視点で作品を完成させることを目標とする。表現方法の拡大のため多様な方法を駆使し目的に沿って完成させる。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) テキスタイルに関わるデザイン、アートの展開事例を知る。</p> <p>(2) テーマに基づいたデザイン及びアート計画を遂行する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>多様なデザイン表現のスキルやテクニックを拡大し各自で開発する。プランニングを通じて、サンプル制作及び企画制作を行う。</p> <p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 作品課題説明 2. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (ディスカッション) 3. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (資料収集) 4. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (資料調査) 5. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (展開) 6. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (アイデア出し) 7. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (試作) 8. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (再構成) 9. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題制作 (編集) 10. 感覚をテーマとしたデザイン企画課題講評会 11. サーフェイスデザイン課題制作 (ディスカッション) 12. サーフェイスデザイン課題制作 (資料収集) 13. サーフェイスデザイン課題制作 (アイデア出し) 14. サーフェイスデザイン課題制作 (試作) 15. サーフェイスデザイン課題制作講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	企業における商品開発の実務経験を活かし、デザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。				
テ キ ス ト 教 材	「DESIGNING DESIGN」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明		
授 業 科 目	工芸染織		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	演習	開講時期	1年次・後期
授業の主題 目 標	<p>学生は手織機を使用しながら、基本的な織組織から布をつくることを修学する。テキスタイル表現としてのテクスチャと造形表現を修得し、自らデザインした作品制作を遂行する。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 布の構造及び織り表現及び技法を修学することができる。</p> <p>(2) 織りによる布の造形表現及びデザイン展開を遂行する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 課題説明 2. テーマ課題制作 (アイデア出し) 3. テーマ課題制作 (織物構想) 4. テーマ課題制作 (織物設計) 5. テーマ課題制作 (糸染め準備) 6. テーマ課題制作 (糸染め説明) 7. テーマ課題制作 (糸染め) 8. テーマ課題制作 (経糸準備) 9. テーマ課題制作 (整経作業) 10. テーマ課題制作 (手織機への経糸セッティング) 11. テーマ課題制作 (織り表現説明) 12. テーマ課題制作 (織り作業) 13. テーマ課題制作 (織り作業・展開) 14. テーマ課題制作 (仕上げ) 15. テーマ課題制作講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	「ウィーヴィング・ノート」を参考にする。資料を配布する。				
準備学習の 具体的内容	課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。				
評価の方法 基 準	期日指定の作品 (100%)				
履 修 上 の 注 意	演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	田中 孝明 (実務経験あり)		
授 業 科 目	染色実習		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p>学生は布による造形作品の制作として染色の応用段階に入り多様なスキルやテクニックを体得する。シルクスクリーンプリント、CGプリント、絞り染、型染、植物染料実験等の実習を行う。</p> <p>また、応用作品では各自が自由にテーマを設定し創造的な作品制作を制作する。多様な染色表現、布の加工表現などを修学し、創造的な発想を育てることを目標とする。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) テキスタイルに関わる表現、技法を体験し、知ることができる。</p> <p>(2) テキスタイル表現によるものづくりの展開を遂行する。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>授業進行手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス, 課題説明 2. 型染による作品制作 (括り作業) 3. 型染による作品制作 (絞り染め) 4. 型染による作品制作 (型紙制作) 5. 型染による作品制作 (糊置き) 6. 型染による作品制作 (染色) 7. 型染による作品制作 (定着) 8. 布加工による作品制作 (オパール加工) 9. 布加工による作品制作 (染色) 10. 植物染料実験 11. 応用作品制作 (ディスカッション) 12. 応用作品制作 (アイデア出し) 13. 応用作品制作 (展開) 14. 応用作品制作 (試作) 15. 講評会 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	<p>企業における商品開発の実務経験を活かし、応用作品制作におけるものづくりのデザイン企画、色彩計画、デザイン作成に関しての実践的教育を行います。</p>				
テ キ ス ト 教 材	<p>「絞り染め大全」, 「染色の基礎知識 合成染料の技法」を参考にする。資料を配布する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<p>各課題において、授業前の資料収集、デザインなどを求める場合がある。</p>				
評価の方法 基 準	<p>期日指定の作品 (100%)</p>				
履 修 上 の 注 意	<p>演習による作品制作が多く、提出物は毎回期日を厳守すること。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦		
授 業 科 目	衣服論	科目区分	専門科目	2 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1, 2 年次・後期 (隔年)
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 衣服という存在が可能にしてきたことを、デザイナー・芸術家・思想家の仕事、衣服そのもの、ファッションなどの現象を通じて多角的に考察する。個々の研究内容に関わる視点から衣服について各自プレゼンテーションを行い、それを題材にしてディスカッションを行う。</p> <p><到達目標> 衣服における社会的あるいは文化的な事象について理解することができる。 衣服のデザイン及び制作における問題や価値を理解し説明することができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ひととはなぜ衣服を着るのか 2. 衣服の領域について 3. 未来につながるファッションの新しい価値とは 4. ディスカッション 5. 衣服の領域 ルーシー・オルタの身体建築 6. 衣服の領域 草間彌生の絵画とソフトスカルプチュア 7. 衣服の領域 まとめ 8. 神々との接触 9. みっともない人体・衣服 10. 事例研究 ファッションについて 11. 事例研究 身体と衣服の関わりについて 12. 事例研究 社会との関わりについて 13. 事例研究 時代の特徴 (2000 年以降) 14. 事例研究 時代の特徴 (2000 年以前) 15. まとめ <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料 『衣服の領域』小池一子監修 (武蔵野美術大学美術資料図書館)</p>				
準備学習の 具体的内容	授業で配付された資料や参考資料に目を通し、プレゼンテーションの準備や課題に取り組むこと。				
評価の方法 基 準	<p>プレゼンテーション (60%) 課題 (40%)</p>				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 現在の社会・経済の仕組み, コミュニティやコミュニケーションについて考察し, 身近なものを観察することを通して, デザインや表現を試みる。個々で調査・研究・制作を行い, 展示形式による発表を行う (学内外を問わない)。 <到達目標> 生活を形成している環境や製品について考察し, 問題を提起することができる。 発想・伝達・構成する力を軸に, 独自性と社会性の両立を前提としたデザインやプロジェクトを提案できる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 自分たちの生活環境について 2. 調査・研究1 周囲を観察する。 3. 調査・研究2 身近なものの収集 4. 調査・研究3 収集したものの分類・編集 5. 中間発表 (調査・研究のプレゼンテーション) 6. 試作1 収集したものの落とし込み 7. 試作2 パターンの提示・これまでのまとめ 8. 中間発表 (試作のプレゼンテーション) 9. 制作1 作品の考えについて 10. 制作2 広報に関するもの 11. 制作3 デザイン, 制作 12. 設営, 展示 13. 講評, 搬出 14. ポートフォリオの作成 15. ポートフォリオのプレゼンテーション <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	デザインと展示の実務経験を活かし, デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料 『「その日暮らし」の人類学』小川さやか (光文社新書) 『うしろめたさの人類学』松村圭一郎 (ミシマ社)</p>				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	課題 (80%) プレゼンテーション (20%)				
履 修 上 の 注 意	展示場所の視察など, 別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	上村 晴彦 (実務経験あり)		
授 業 科 目	ライフプロダクト演習Ⅱ	科目区分	専門科目	1 単 位	
必修・選択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 身の回りにあるものから企画する力と展覧会の実践を通して、創造とコミュニケーションの能力を鍛える。受講者全員の話し合いを通して、共通のテーマを設定する。個々はそのテーマへのアプローチを試みる。研究と試作を経て、制作を行う。学外での展示形式の発表を予定している。</p> <p><到達目標> 身の回りを観察し資料収集する能力を高め、テーマに基づいたデザイン・制作をすることができる。グループワークによるコミュニケーションを前提とした、企画を立案し実践することができる。</p>				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション テーマに関する観察力と視点について 2. テーマに関する情報の収集 3. テーマに関する話し合いとテーマ設定 4. 展示に関する役割決めとスケジュールの作成 5. 展示場所についての情報収集と考察 6. 展示場所の現地視察 7. 研究・試作1 制作に関する収集 8. 研究・試作2 分類と編集 9. 研究・試作3 これまでのまとめ 10. 中間発表 プレゼンテーション 11. 広報の構想とデザイン 12. 制作1 考えの構築 13. 制作2 全体の構成 14. 搬入, 展示 15. 講評, 搬出 <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容	デザインと展示の実務経験を活かし、デザイン企画とデザインに関する実践的教育を行う。				
テ キ ス ト 教 材	<p>参考資料</p> <p>『ちゃぶ台』 vol.1~3 (ミシマ社)</p> <p>『世界をきちんとあじわうための本』 ホモ・サピエンス道具研究会 (ELVIS PRESS)</p>				
準備学習の 具体的内容	課題に必要な調査と収集を行うこと。				
評価の方法 基 準	課題 (80%) プレゼンテーション (20%)				
履 修 上 の 注 意	展示場所の視察や搬入搬出など、別途交通費などが必要になる場合がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修 I		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・前期 (集中)
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> この科目は、学外での学びを通じて学習意欲を高めることや就職活動に備え、早い時期から産業界との接点を持ち、実務的な体験を得ることが目的である。</p> <p><到達目標> 以下の実行能力が身についている。</p> <p>① 大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること</p> <p>② 自分自身の将来について考えること</p> <p>③ 自分自身の適性を確認できるようになること</p> <p>④ 学びと働くことの意義を考えること</p> <p>⑤ 働くことの楽しさや厳しさを体感すること</p> <p>⑥ 就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、夏休みを含めた前期終了までに以下の流れで授業を展開する。</p> <p>1. 大学生の就職活動における産業研修の意義 就職活動、採用マッチング、産業研修とは何か、企業と学生にとってのメリット</p> <p>2. 労働市場の動向 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給</p> <p>3. 産業研修の準備を始めよう 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※産業研修先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。</p> <p>4-14. 産業研修の実施 企業、行政機関、まちづくり団体で産業研修へ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる</p> <p>15. レポート作成 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』 梅崎 修 他 有斐閣 2,860 円</p> <p>【参考書】『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 小川慎一 他 有斐閣 2,530 円</p> <p>【参考書】『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版]』 伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 3,080 円</p> <p>※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析、業界研究、企業研究を行うこと。 産業研修先の企業等に関する予備調査をすること。 				
評価の方法 基 準	受講態度 (50%)、産業研修日誌とレポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	<p>下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。</p> <p>①産業研修先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。</p> <p>②産業研修先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。</p> <p>③社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。</p> <p>④採用につながる可能性があることを意識すること。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。</p> <p>⑥原則として2023年8月末日までに産業研修を終えること。</p> <p>⑦大学が準備している産業研修先企業を希望しない場合は、自ら確保することを求める。</p> <p>⑧大学が準備している産業研修先企業は、受け入れ人数に制約がある。よって、履修登録に先立って予備調査を行い、履修制限を実施する場合もある。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	産業研修Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必修・選択	選択	授業形態	実習	開 講 時 期	1 年次・後期 (集中)
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> この科目は、日ごろ学んでいる知識や技術を用いて、多角的な視点から企業を観察する眼を養うことや進路選択の基盤とすることが目的である。</p> <p><到達目標> 以下の実行能力が身についている。</p> <p>① 大学で学んでいる知識・理論・技術が実社会でどのように生きているか、あるいは、どのような相違があるかを考えること</p> <p>② 自分自身の将来について考えること</p> <p>③ 自分自身の適性を確認できるようになること</p> <p>④ 学びと働くことの意義を考えること</p> <p>⑤ 働くことの楽しさや厳しさを体感すること</p> <p>⑥ 就職活動に対する選択肢を広げ自分自身のキャリアデザインを描くこと</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>授業スケジュールや内容は、企業、行政機関、まちづくり団体などの都合に準じる。なお、冬休みを含めた後期終了までに以下の流れで授業を展開する。</p> <p>1. 大学生の就職活動における産業研修の意義 就職活動、採用マッチング、産業研修とは何か、企業と学生にとってのメリット</p> <p>2. 労働市場の動向 新卒とは、労働市場の特殊性、労働市場の需要と供給</p> <p>3. 産業研修の準備を始めよう 自己分析、業界研究、企業研究、就職支援サイトの活用と問題点、ハローワークの活用 ※産業研修先は、大学から紹介する受入先および就活支援サイト等から紹介する受入先を各自で選択することができます。</p> <p>4-14. 産業研修の実施 企業、行政機関、まちづくり団体で産業研修へ参加 ※内容、スケジュール、場所は企業等によって異なる</p> <p>15. レポート作成 自分自身のキャリア形成にどのように役立ったか整理しながらまとめる、お礼状を作成する</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	<p>【参考書】『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』 梅崎 修 他 有斐閣 2,860 円</p> <p>【参考書】『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 小川慎一 他 有斐閣 2,530 円</p> <p>【参考書】『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第3版]』 伊藤 純 他 ミネルヴァ書房 3,080 円</p> <p>※参考書は必ずしも購入する必要はない。その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介する。</p>				
準備学習の 具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自己分析、業界研究、企業研究を行うこと。 ・産業研修先の企業等に関する予備調査をすること。 				
評価の方法 基 準	受講態度 (50%)、産業研修日誌とレポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	<p>下記の注意点をよく読み、理解した上で履修してください。</p> <p>①産業研修先の企業等の多大なる協力によって成り立っていることに留意すること。</p> <p>②産業研修先の企業等ごとに、就業規則等に準じて実習を行うため、特別の理由なく遅刻や欠勤をしないこと。また、安全守則を厳守すること。</p> <p>③社会人としての規律と自覚を持って実習に参加すること。</p> <p>④採用につながる可能性があることを意識すること。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の蔓延等により、参加できない可能性があるため、早めに参加すること。</p> <p>⑥原則として2024年1月末日までに産業研修を終えること。</p> <p>⑦大学が準備している産業研修先企業を希望しない場合は、自ら確保することを求める。</p> <p>⑧大学が準備している産業研修先企業は、受け入れ人数に制約がある。よって、履修登録に先立って予備調査を行い、履修制限を実施する場合もある。</p>				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究		科目区分	専門科目	8 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1,2年次・通年
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。</p> <p><到達目標> 専攻科課程の集大成として、自ら選択した研究テーマの遂行を通じて独創性・積極性を体得しており、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得している。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>指導教員は学生と共に研究テーマを設定する。テーマに必要な知識を個人指導・講義・ゼミ・自学により学ばせながら研究または制作を計画遂行させる。その結果を学位授与機構へのレポートとしてまとめさせる。最終的な結果を特別研究論文または作品として提出する。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各自の研究により教材が異なる。				
準備学習の 具体的内容	学士論文作成のための論文検索調査をすること。 研究テーマについて自主的な探究を継続すること。				
評価の方法 基 準	指導教員（服飾美術学科教員）が行う。				
履 修 上 の 注 意	各指導教員で受け入れ人員に制限がある。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究 I		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	<p><授業の主題> 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。 <到達目標> この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得している。特にこの特別研究 I では、研究テーマの設定、先行研究・制作の調査に重点を置く。</p>				
授業の内容 進 め 方	<p>本科目は学修総まとめ科目である特別研究Ⅱの準備段階として授業を進める。 履修者が指導教員による指導の下、自らの研究構想を具体的な研究課題の設定につなげ、先行研究をまとめた上で、枠組みとなる理論や研究方法を探り、「研究計画書」を仕上げる。</p> <p>1～2. オリエンテーション (担当：ゼミ担当教員) 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の学修・探求 (担当：ゼミ担当教員) 10～11. 学修・探求の成果論文の内容 (計画)・過程 (案) の作成 (担当：ゼミ担当教員) 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想 (案) の作成 (担当：ゼミ担当教員) 14～15. 学修・探求の成果論文の目的 (案), 手段・方法 (案) の作成 (担当：ゼミ担当教員) 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成 (担当：ゼミ担当教員) 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会 (担当：服飾美術学科全教員) 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ (案) の修正 (担当：ゼミ担当教員) 24～25. 学修・探求の成果論文の内容 (計画)・過程 (案) の修正 (担当：ゼミ担当教員) 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ (仮) の着想の修正 (担当：ゼミ担当教員) 28～29. 学修・探求の成果論文の目的 (案), 手段・方法 (案) の修正 (担当：ゼミ担当教員) 30. まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>				
実務経験を 活かす内容					
テキスト 教 材	各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	演習における学修過程や研究成果をもとに指導教員 (服飾美術学科教員) が評価を行う。				
履 修 上 の 注 意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに人数調整を行う。				

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年 次 ・ 通 年
授 業 の 主 題 標 目	<p><授業の主題> 講義・演習・実習・実験等で学んだ知識・技術を応用して、各自のテーマについて研究および課題制作に取り組み、その過程を通じて研究能力または技能を養うと共に、発表の仕方や論文の書き方等について学ぶ。</p> <p><到達目標> この過程を通じて独創性・積極性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得している。特にこの特別研究Ⅱでは、修了論文の完成を目指す。</p>				
授 業 の 内 容 進 め 方	<p>本科目は学修総まとめ科目としての意義を有する。 特別研究Ⅰで立案した「研究計画書」にもとづき、履修者が指導教員によるさらなる指導の下で、必要な研究課題の再考や修正を加えながら、フィールドでの質的・量的調査や実証実験、文献探索、模型やオブジェ制作等（以下、「調査等」という。）を進め、独自の研究結果を得て、分析・考察を加えた後、修了論文にまとめる。</p> <p>1～12. フィールドでの調査等の実施計画（ゼミ担当教員） 調査等の方法や調査等の倫理など（ゼミ担当教員） 調査等の計画に沿った研究の準備・実施（ゼミ担当教員） 履修計画発表（服飾美術学科全教員） 学修総まとめ科目履修計画書の作成（ゼミ担当教員）</p> <p>13～16. 調査等の結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等（ゼミ担当教員） 17～18. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成（ゼミ担当教員） 19～20. 学修成果発表会（服飾美術学科全教員） 21～26. 学修・探求の成果論文の修正（ゼミ担当教員） 27～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成（ゼミ担当教員）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各ゼミにおいて、演習内容に即して適宜配布する。				
準備学習の 具体的内容	演習授業の進行状況により、修了論文作成のための論文検索調査など、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
評価の方法 基 準	<p>授業や研究活動への主体的な取り組み状況</p> <p>修了論文 学修成果発表会・修了論文報告 学修総まとめ科目成績基準表、を基に判断する。</p>				
履 修 上 の 意 注	<p>発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。</p> <p>修了論文の提出期限（提出先：学生部）は、原則として、2年次の1月中旬（別途日時を指定）とする。</p> <p>ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。</p>				